

令和7年度 学校評価(総括評価表)

1. 学校教育目標

- (1)心身ともに健全で人間尊重と助け合いの精神に満ちた、社会に貢献できる人間の育成に努める。
- (2)勤労と学業の両立を図り、進んで諸問題を解決しようとする自主的・自発的な姿勢を持つ人間の育成を図る。
- (3)生徒と教師相互の温かい人間関係を深めるとともに、個別指導の一層の充実を図り、基礎学力の向上に努める。
- (4)家庭と学校との連携を密にし、規則正しい生活習慣の確立と就労の指導を推進し、望ましい生活態度の育成に努める。
- (5)命を大切にせる教育を推進し、交通安全教育に努める。

2. 本年度の重点目標

- (1)基本的生活習慣の確立を図る生徒指導を充実する。
- (2)勤労と学業の両立を図り、社会で自立する能力や態度を育成する。
- (3)自他を大切にする心や態度を育成する。
- (4)防災・安全教育の徹底と環境教育を推進する。
- (5)主権者教育・消費者教育・情報教育を推進する。

徳島県立名西高等学校定時制課程

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価	学校関係者の意見	
「基本的生活習慣の確立」 「社会で自立する能力や態度の育成」	(全校レベル) I) 個に応じた支援を実践し、生活習慣の確立と基礎学力の向上を図る。 (下位組織レベル) ① キャリア教育を推進する中で、生徒の進路意識を明確にし、学習能力・態度を高める。 [進路課・生徒課] ② わかる授業を実践するとともに、個々の生徒の学力について共通理解を図り、支援の方策を探る。[教務課・進路課・各教科] ③ 読書習慣を定着させ、情報活用能力を育む。 [教務課・特別活動課・情報科]	評価指標		評価指標の達成度	総合評価	①生徒に寄り添った指導がなされている。更に 学校の魅力を打ち出す取り組みを行っていただきたい。また、魅力を発信することが大切である。 ②イベントについて、参加しない生徒がいるかと思う。そのフォローをお願いしたい。また、アルバイトをさせることは社会性を身につけ、金銭感覚を養うため、重要である。引き続き働きかけてほしい。 ②生徒が将来どのような形で具体的な未来像を創るために講演会やワークショップ形式の講座を開き、様々な立場の方の話を聞いたり、体験型の行事を行う。次年度も生徒の社会性向上を図るため、系統的なキャリア教育行事を推進するとともに勤労観の育成に努める。学校行事欠席者については、引き続き十分に情報提供を行う。また、学校行事をはじめとして、普段の授業の様子など、生徒の様々な活動について、引き続きホームページで紹介する。 ③基礎学力の定着のために、テストの難易度を生徒の状況に合わせて設定し、生徒が達成感を得られるものとする。また、生徒の状況に合わせた検定等を紹介し、挑戦させる機会を作る。
		I) 授業出席率90%以上。(R6 92.6%) 遅刻する生徒の割合5%以下。(R6 1.9%)		I) 授業出席率93.4%。 遅刻した生徒の割合2.0%。	B	
		①-1 進路指導における関連機関等と連携し、進路講演会等のキャリア教育行事を実施。年間2回以上。(R6 実施回数3回)		①-1 キャリア教育行事を各学期に1回、計3回実施	(所見)	
		①-2 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合60%以上。(R6 70%)		①-2 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合。63.2%	授業出席率は90%を超えている。学校アンケートで「学校が楽しい」「入学してよかった」など70%以上の数値であり、この値が高出席率につながっていると考える。同アンケートでは授業評価における満足度は90%を超える教科があるものの、理解度については40%の教科もある。このため、「学び直し」から高校の授業内容へつながる工夫については更に検討をする必要があると考える。少人数の強みを生かし、生徒がやる気を持って学習に臨める授業展開を実践することで理解度を高めたい。社会との接点が少なく、自分から積極的に動くことが少ない生徒が多いことからアルバイトの推奨やエシカル教育行事、こども食堂等を通じての体験を行っている。これらを通じて労働観や達成感を育て、自分の将来について主体的に考える姿勢を身につけさせたい	
		②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を活用した授業の割合90%以上。(R6 89%)		②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を活用した授業の割合 90%		
		②-2 授業評価、学校生活に関するアンケート等の結果を基におこなう学力検討会の実施回数。年間5回以上。(R6 実施回数5回)		②-2 学力検討会の実施回数 年間3回 1学期1回、2学期1回、3学期1回		
		②-3 教員相互の授業参観。各学期に1回以上(R6 各学期に1回実施)		②-3 教員相互の授業参観。各学期に1回実施		
		②-4 授業評価による生徒の理解度・満足度の向上。理解度80%以上、満足度90%以上。(R6 理解度75.8% 満足度84.6%)		②-4 授業評価による生徒の理解度・満足度の向上。理解度78.6% 満足度86.9%		
		③ ホームルーム活動等で図書室を利用する。各クラス年間3回以上		③ ホームルーム活動等で図書館を利用した回数 1年3回、2年0回、3年3回、4年4回		
		活動計画		活動計画の実施状況		
	I) 生徒の実態について共通理解を図り、個に応じた支援を検討し、実践する。+J36:Y5I		I) 定期的にケース会議を行ったり、情報交換を密にし、生徒一人一人の理解に努めた。			

		①-1 生徒の進路実現に向けて、進路講演会等のキャリア教育行事を系統的に実施する。 ①-2 アルバイト等校外での活動を推奨し、社会性を身につけさせる。 ②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器の積極的・効果的な活用を心掛け、主体的で対話的な授業を目指す。 ②-2 学力検討会を実施し、生徒の学力について 共通理解を図り、支援の方策を探る。 ②-3 教員相互に授業参観を行い、他教科における生徒の理解度を把握し、授業改善に役立てる。 ②-4 授業評価の結果を分析し、授業方法の改善やわかる授業の実践に役立てる。 ③ 生徒が読書にいきしむ習慣づくりに努め、図書館の利用促進をはかる。	①-1 進路講演会以外にも「エシカル教育行事」などを利用し、勤労観や労働意欲の醸成に取り組むキャリア教育内容の行事を実施することができた。 ①-2 アルバイト等校外での活動を推奨した結果、2/3 近くの生徒がアルバイトに従事している。 ②-1 授業において電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を、積極的・効果的に活用している。 ②-2 学力向上に向けた検討会を年間を通して実施し、生徒の学力や意識調査の結果について共通理解を図るとともに、学習支援について相談することができた。 ②-3 活発な相互授業参観が行えず、他教科における生徒の理解度を十分に把握できなかった。 ②-4 学力向上アンケートや学校生活等の意識調査の結果を分析し、授業改善や生徒理解をすすめることができた。 ③ 十分に図書館の利用を進めることができなかった。																																																															
「自他を大切にする心や態度の育成」 「主権者意識や防災意識の高揚」	(全校レベル) I) 生徒の人間関係構築力や社会性の育成を図り、自他を守る社会規範を身に付けさせる。 (下位組織レベル) ① 異年齢間の交流や社会体験などを多く経験させる。 [各学年・特活課] ② 校外での活動を推奨し、地域との繋がりを感じさせる。 [各学年・特活課] ③ 個に応じた指導を実践する。 [各学年・特別支援コーディネーター] ④ いじめを防止する。 [各学年・生徒課] ⑤ さまざまな人権問題に対する意識を向上させる。 [各学年・人権教育課] ⑥ 防災教育を充実させる。 [各学年・環境教育課] ⑦ 主権者意識を高める教育を推進する。 [公民科・各教科]	<table><tr><th>評価指標</th><td></td></tr><tr><td>I) 4月に比べ、よりよい人間関係を構築でき、社会性が向上したと考える生徒の割合。 90%以上 (R6 80%)</td><td></td></tr><tr><td>① 学校行事への満足度80%以上。(R6 92.3%) エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上80%以上。 (R6 理解度90% 満足度93.3%)</td><td></td></tr><tr><td>② 地域に貢献するボランティア活動の実施。年間2回以上。 (R6 実施回数1回)</td><td></td></tr><tr><td>③ 生徒の状況についてケース会議など、共通理解を図る機会の設定。</td><td></td></tr><tr><td>④ 学校全体でいじめを許さない雰囲気づくりを行い、アンケート実施により現状把握を行う。 (R6 いじめ発生件数1件)</td><td></td></tr><tr><td>⑤ 人権問題に対する意識が向上し、態度や行動に移せたと回答した生徒の割合60%以上。 (R6 86.7%)</td><td></td></tr><tr><td>⑥ 防災訓練・避難訓練の実施年間3回以上。 (R6 4回)</td><td></td></tr><tr><td>⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 80%以上 (R6 76.7%)</td><td></td></tr><tr><th>活動計画</th><td></td></tr><tr><td>I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を図り、人間関係構築力や社会性の育成を目指した指導を実践する。</td><td></td></tr><tr><td>① 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させる。</td><td></td></tr><tr><td>② 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。</td><td></td></tr></table>	評価指標		I) 4月に比べ、よりよい人間関係を構築でき、社会性が向上したと考える生徒の割合。 90%以上 (R6 80%)		① 学校行事への満足度80%以上。(R6 92.3%) エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上80%以上。 (R6 理解度90% 満足度93.3%)		② 地域に貢献するボランティア活動の実施。年間2回以上。 (R6 実施回数1回)		③ 生徒の状況についてケース会議など、共通理解を図る機会の設定。		④ 学校全体でいじめを許さない雰囲気づくりを行い、アンケート実施により現状把握を行う。 (R6 いじめ発生件数1件)		⑤ 人権問題に対する意識が向上し、態度や行動に移せたと回答した生徒の割合60%以上。 (R6 86.7%)		⑥ 防災訓練・避難訓練の実施年間3回以上。 (R6 4回)		⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 80%以上 (R6 76.7%)		活動計画		I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を図り、人間関係構築力や社会性の育成を目指した指導を実践する。		① 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させる。		② 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。		<table><tr><th>評価指標の達成度</th><td></td></tr><tr><td>I) 4月に比べ、人間関係構築力や社会性が向上したと考える生徒の割合。 83.8%</td><td></td></tr><tr><td>① 学校行事への満足度。 83.8% エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上。 理解度81.1%、満足度89.2%</td><td></td></tr><tr><td>② 生徒会活動の一環として地域清掃活動を5月に1回実施した。活動には声かけをした生徒会所属の生徒全員が参加し、地域の清掃活動を実施することができた。</td><td></td></tr><tr><td>③ 毎日の連絡会で生徒の状況について情報交換を行った。また、必要に応じてケース会議を行い、職員間での共通理解を図った。</td><td></td></tr><tr><td>④ 教員間の情報交換、連携を密に図り、指導と雰囲気づくりに努め、認知したいじめについて解消することができた。また、7月にはいじめ防止生徒委員会の活動で、</td><td></td></tr><tr><td>⑤ 人権意識が向上したと回答した生徒の割合。 89.2%</td><td></td></tr><tr><td>⑥ 地震・火災を想定した避難訓練を年間4回実施した。</td><td></td></tr><tr><td>⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 83.8%</td><td></td></tr><tr><th>活動計画の実施状況</th><td></td></tr><tr><td>I) 機会を捉えて生徒の特性や発達段階などについて共通理解を図り、各場面で個に応じた指導を実践することができた。</td><td></td></tr><tr><td>① エシカル教育行事、遠足、修学旅行、予餞会でのボーリング大会などの魅力ある行事を計画し、実施することができた。</td><td></td></tr><tr><td>② 生徒会活動の一環として前期に1回、地域の清掃活動を実施することができた。</td><td></td></tr></table>	評価指標の達成度		I) 4月に比べ、人間関係構築力や社会性が向上したと考える生徒の割合。 83.8%		① 学校行事への満足度。 83.8% エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上。 理解度81.1%、満足度89.2%		② 生徒会活動の一環として地域清掃活動を5月に1回実施した。活動には声かけをした生徒会所属の生徒全員が参加し、地域の清掃活動を実施することができた。		③ 毎日の連絡会で生徒の状況について情報交換を行った。また、必要に応じてケース会議を行い、職員間での共通理解を図った。		④ 教員間の情報交換、連携を密に図り、指導と雰囲気づくりに努め、認知したいじめについて解消することができた。また、7月にはいじめ防止生徒委員会の活動で、		⑤ 人権意識が向上したと回答した生徒の割合。 89.2%		⑥ 地震・火災を想定した避難訓練を年間4回実施した。		⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 83.8%		活動計画の実施状況		I) 機会を捉えて生徒の特性や発達段階などについて共通理解を図り、各場面で個に応じた指導を実践することができた。		① エシカル教育行事、遠足、修学旅行、予餞会でのボーリング大会などの魅力ある行事を計画し、実施することができた。		② 生徒会活動の一環として前期に1回、地域の清掃活動を実施することができた。		<table><tr><th>総合評価</th><td></td></tr><tr><td>B</td><td></td></tr><tr><td>(所見)</td><td></td></tr><tr><td>中学校時の不登校や多欠席の生徒が多いため、人間関係構築力が入学時に低い状態である。学校行事への参加など学年を超えた交流の場を活用し、コミュニケーション力の向上に努めた。 アンケート結果からも、人間関係構築力や社会性の伸長を実感した生徒の割合が年度当初より増えている。本校生の実態を踏まえると、日々の授業は大切であるが、魅力ある学校行事の企画・運営も重要である。外部講師による授業や学年を越えた生徒との交流など、普段の授業とは違う活躍の場が与えられることによって、生徒は様々な経験を積み、さらなる成長が見込まれる。 来年以降も生徒の人間関係構築力や社会性の育成につながる取り組みを推し進めたい。</td><td></td></tr></table>	総合評価		B		(所見)		中学校時の不登校や多欠席の生徒が多いため、人間関係構築力が入学時に低い状態である。学校行事への参加など学年を超えた交流の場を活用し、コミュニケーション力の向上に努めた。 アンケート結果からも、人間関係構築力や社会性の伸長を実感した生徒の割合が年度当初より増えている。本校生の実態を踏まえると、日々の授業は大切であるが、魅力ある学校行事の企画・運営も重要である。外部講師による授業や学年を越えた生徒との交流など、普段の授業とは違う活躍の場が与えられることによって、生徒は様々な経験を積み、さらなる成長が見込まれる。 来年以降も生徒の人間関係構築力や社会性の育成につながる取り組みを推し進めたい。		①落ち着いた環境で生徒の自己実現のための働きかけがなされている。地元を大切にし、様々な行事において地元と協力して進めていただきたい。	①生徒同士の人間関係構築力育成のため、スポーツ大会をはじめとして、クラス横断型の学校行事を設定したい。また、引き続き地元企業の協力のもと、体験に基づく理解促進を図ることのできるエシカル教育を推進したい。
		評価指標																																																																
I) 4月に比べ、よりよい人間関係を構築でき、社会性が向上したと考える生徒の割合。 90%以上 (R6 80%)																																																																		
① 学校行事への満足度80%以上。(R6 92.3%) エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上80%以上。 (R6 理解度90% 満足度93.3%)																																																																		
② 地域に貢献するボランティア活動の実施。年間2回以上。 (R6 実施回数1回)																																																																		
③ 生徒の状況についてケース会議など、共通理解を図る機会の設定。																																																																		
④ 学校全体でいじめを許さない雰囲気づくりを行い、アンケート実施により現状把握を行う。 (R6 いじめ発生件数1件)																																																																		
⑤ 人権問題に対する意識が向上し、態度や行動に移せたと回答した生徒の割合60%以上。 (R6 86.7%)																																																																		
⑥ 防災訓練・避難訓練の実施年間3回以上。 (R6 4回)																																																																		
⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 80%以上 (R6 76.7%)																																																																		
活動計画																																																																		
I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を図り、人間関係構築力や社会性の育成を目指した指導を実践する。																																																																		
① 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させる。																																																																		
② 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。																																																																		
評価指標の達成度																																																																		
I) 4月に比べ、人間関係構築力や社会性が向上したと考える生徒の割合。 83.8%																																																																		
① 学校行事への満足度。 83.8% エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上。 理解度81.1%、満足度89.2%																																																																		
② 生徒会活動の一環として地域清掃活動を5月に1回実施した。活動には声かけをした生徒会所属の生徒全員が参加し、地域の清掃活動を実施することができた。																																																																		
③ 毎日の連絡会で生徒の状況について情報交換を行った。また、必要に応じてケース会議を行い、職員間での共通理解を図った。																																																																		
④ 教員間の情報交換、連携を密に図り、指導と雰囲気づくりに努め、認知したいじめについて解消することができた。また、7月にはいじめ防止生徒委員会の活動で、																																																																		
⑤ 人権意識が向上したと回答した生徒の割合。 89.2%																																																																		
⑥ 地震・火災を想定した避難訓練を年間4回実施した。																																																																		
⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 83.8%																																																																		
活動計画の実施状況																																																																		
I) 機会を捉えて生徒の特性や発達段階などについて共通理解を図り、各場面で個に応じた指導を実践することができた。																																																																		
① エシカル教育行事、遠足、修学旅行、予餞会でのボーリング大会などの魅力ある行事を計画し、実施することができた。																																																																		
② 生徒会活動の一環として前期に1回、地域の清掃活動を実施することができた。																																																																		
総合評価																																																																		
B																																																																		
(所見)																																																																		
中学校時の不登校や多欠席の生徒が多いため、人間関係構築力が入学時に低い状態である。学校行事への参加など学年を超えた交流の場を活用し、コミュニケーション力の向上に努めた。 アンケート結果からも、人間関係構築力や社会性の伸長を実感した生徒の割合が年度当初より増えている。本校生の実態を踏まえると、日々の授業は大切であるが、魅力ある学校行事の企画・運営も重要である。外部講師による授業や学年を越えた生徒との交流など、普段の授業とは違う活躍の場が与えられることによって、生徒は様々な経験を積み、さらなる成長が見込まれる。 来年以降も生徒の人間関係構築力や社会性の育成につながる取り組みを推し進めたい。																																																																		

		③ 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒について共通理解を図る機会を設けるとともに、SCの助言等を仰ぎながら、個に応じた指導が実践で ④ いじめに関するホームルーム活動を行い、アンケートを実施する。 ⑤ 人権問題に関するホームルーム活動や講演 会等の行事を系統的に行い、アンケートを実施する。 ⑥ 停電時を想定した訓練など、夜間定時制における効果的な防災訓練や避難訓練を実施する。 ⑦ 公民科を中心として各教科の授業や学校行 事で主権者教育を実施する。	③ 機会あるごとに共通理解を図る機会を設けた。保健調査等からの情報を提供すると共に、SCの助言を職員会議を通して共通理解を図り、今後について意見交換を ④ 6月と2月に、学校生活における不安や人権問題などに関わるアンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。 ⑤ 人権ホームルーム活動や人権講演会、人権映画鑑賞会を系統的に行い、人権アンケートを講演会后に実施し、生徒の人権意識を把握した。 ⑥ 停電時を想定し、安全を配慮した上で照明を消した状態で避難訓練を実施した。 ⑦ 各教科での指導や、講演会を通して主権者意識の醸成をはかった。		
--	--	---	--	--	--

【備 考：「総合評価」における「評定」の基準】 A:十分達成できた、B:概ね達成できた、C:達成できなかった